

研究大学強化促進事業と強い「想い」

研究推進アドミニストレーションセンター

センター長 石田 誠 (いしだ まこと)

研究大学強化促進事業に採択が決まってから、1年あまりが過ぎ、その基盤組織である「研究推進アドミニストレーションセンター(RAC)」設立から1年が経ちました。この間、RAC組織を立ち上げ、そこで活躍していただくURA(戦略的研究推進強化専門職)の採用、これまでの産学連携推進本部の発展的融合・運営、そして、申請時の構想(下記と図)の研究力強化活動が動き始めたところです。研究力強化のための「研究戦略企画会議」を学長の下に、月に1回のペースで行いながら、執行部での意思の疎通を良くし、大学の課題を挙げ、解決策を検討する体制を築いています。下記に現在進行している項目を挙げます。

1. 研究力強化活動
 - (1) 現状分析と強化策
 - (2) 「価値創造型工学」の推進と支援策
 - (3) 新たな環境整備：学内設備共用システムの整備、特待留学生制度
2. 分野・組織の垣根を越えた研究の場形成(EIIRISを特区として全学展開)
3. 人事制度改革(人事委員会：年俸制、研究者循環型モデル)
4. 産学連携の高度化と推進要件の実施策
5. 研究戦略企画会議の推進

エレクトロニクス先端融合研究所(EIIRIS)は平成27年度で5年間の特別運営費交付金の期限が来ます。丁度、第3期中期計画が始まる平成28年度に向けて、「分野・組織の垣根を越えた研究の場」の形成を今後どのように進めていくのが課題となっています。研究大

学として、「価値創造型工学」を目標として進めています。新たな研究環境の場の形成を行うにあたり、豊橋技術科学大学ならではの「価値創造工学国際研究拠点」が必要と考えています。平成25年度に、研究大学強化促進事業、博士課程教育リーディングプログラムが採択され、26年度はスーパーグローバル大学創成支援事業の採択と立て続けに、本学の将来を左右する大型プロジェクトが動いています。これらのプログラムを有機的に運営し、連携できるところは協力して本学のアイデンティティを示すことが求められていると考えます。

研究力強化のためのRAC組織の強化や研究運営方針など、上記の重要な課題がありますが、最終的には、本学を構成しておられる先生方の教育・研究活動の総和が、本学の研究力評価となります。先生方は、それぞれの分野で研究し、新しい成果を上げるという「想い」で日々活動されています。この「想い」をいかに実現していくか、大学として、RACとして支援していきたいと思えます。先生方には、是非この強い「想い」を抱き続けて、活躍していただきたいと思えます。

RACでは、研究力評価指針となる最近の本学のデータ(研究論文数など)の傾向を調べていますが、大学を取り囲む研究環境(時間、財源)が厳しくなっている中で、どうしたら、その「想い」を実現していただけるのか、URA始め、コーディネーターの方々支援し、大型プロジェクトの成功に結びついた例もいくつか具体的に始めてきました。また、学内設備の有効利用を進める共用システムなどの整備も始まっています。